
友達

亞里亞

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

友達

【Nコード】

N5093F

【作者名】

亞里亞

【あらすじ】

この小説は少ないです！ちよつとした時間に読んでください。小学生で必ず修学旅行に行きますよね…？友達とお泊まり…！ドキドキワクワクの連続！これはそんな事を書いた小説です。

第1話：行く前（前書き）

まずわ修学旅行へ行く前の日から！

第1話：行く前

ここはとある小学校。

「やばい！遅刻だあ！」私は倉橋理穂。

それでも一応最上級生だ。 威厳は無いけど。

「おはよー！」

私はクラスへと入っていった。

私のクラスは6-C組だ。 「倉橋！ギリセー！」 クラスの

男子が声を上げる。

「まったく！理穂、もうちょっと早めに起きなさいよ！？」

「分かっているけど起きれないんだよ！」

気の強そうな言い方で突っかけて来たのは私の大親友の大野美香だ。

美香は成績優秀、容姿端麗の言葉がよく似合う。そのせいか、よくモテる。

私はというと全くモテた試しがない。

「全く。こんなんじゃ修学旅行が思いやられるわ。」

私と美香は同じ部屋だ。

「でも…ちよつと楽しみだね。修学旅行！」

「当たり前じゃない！一生に一度なのよ！？」

「でも、修学旅行って三回あるよね？」

その時美香は呆れた顔をした。

「あのねえ、理穂。修学旅行って言っても小学校の時の修学旅行はたった一回しかないの！」

「あつ！そうか！」

そこで…

「おおーい！倉橋と大野！喋んなー！」

美香は素早く、

「はい。先生。ごめんなさい。」

私はというとドンクサイ。

「あ、ええと…ごめんなさい…。」

先生はよし、とだけ言うつとまた黒板に向かって文字を書き出した。
美香は授業の内容をちゃんと理解している。

でも私には理解できない。聞いていると眠くなってくる。

コッソ

「……！？」

「ちよつと！理穂！寝ないでよ！？」

「わ、分かってるよ！」

私は焦って言った。

第1話：行く前（後書き）

次も行く前です！

第2話：クラスで…（前書き）

クラスでパーティーの話し合いです。

第2話：クラスで…

え〜。

ちよつと前作、友達とは離れてまた違うお話し。

「もうすぐクリスマスだよねえ?」

私は橋川美奈。

結構天然だのボケてるだの言われる。

「いや…まだ後1ヶ月くらいあるけどねえ…」

この子は乃木薫。

はつきり言々と美人だ。

私が男だったならソッコーで惚れるであろう。

「ねえ美奈? サンタっていつまで信じてた?」

「……?」

「美奈?」

「サンタっていないの?」

「はあ!?! いると思ってたの?」

「うん! ずっと居るのかと思ってたよ。」

薫は呆れた顔をした。

「あんだ…。バツカぢゃないの!?!」

「だあゝつてえ…」

ちなみに私達は今下校途中だ。
街にはクリスマスツリーやリースが飾られており、綺麗に点滅させられてる。

もちろん店にはクリスマス限定の雑貨が並んでいたりする。

「親からは何をもらう?」

「うゝん…ゲームくらいじゃない?」

「そつかあ…私はねDVDプレイヤー買ってもらうんだゝ 小型の」

いつもクールな薫でもやはり楽しみなのだろう。

かなり可愛い顔をした。

勿論私も楽しみに決まってる。

なんたつて小学生なのだから。

「ねえ。薫?」

「うん?何?どした?」

「あのさ、明日はクラスでクリスマスパーティーについてやるんだよね…?」

「そうね。何で?」

「いやゝ楽しみだなあ。つて思つてゝ」

こうは言つた。

確かに言つた。

でも不安もあつた。

私の隣の席の子。

少々虐められ気味だ。

だから私もあえて、机を離している。

それを見抜いたのか。

薫が…

「でも少し不安も混じってるんでしょ？分かるよ？」

「まあね…。」

どれだけ軽くても私だって人間だ。

深刻になったりする。

私の家と薫の家は隣同士。 所謂幼なじみだ。

「もう家か…。」

薫が呟いた。

「ホントだね。ぢゃあまた明日ね薫。」

「うん。バイバイ美奈。」

私達2人は笑ってさよならをした。

でも2人のその笑いが苦笑いだった事はお互い分かっていたし、相手の事も勿論分かっていた。

それでも何も言わなかった…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5093f/>

友達

2011年1月30日15時25分発行